

第6節 登録品種及び特許等

1 登録品種

農業試験場で育成し、登録した品種は次のとおりである。

(1) 稲類

ア 晴れすがた

平成6年9月に品種登録出願した良食味粳品種。品種登録番号第5427号。主な特性は、コシヒカリより出穂期及び成熟期が2日ほど早い早生、耐倒伏性は強く中程度、収量性は多収、玄米千粒重はやや軽く、見かけの玄米品質は良い。

縞萎縮病に高度の抵抗性を有し、穂いもちはやや弱、穂発芽性は難、耐倒伏性及び収量は中。県中、南部の普通植地帯に適する。

イ なすひかり

平成16年2月に品種登録出願した良食味粳品種。品種登録番号第14775号。主な特性は、ひとめぼれより、出穂期で1日、成熟期で2日遅い早生、耐倒伏性は強く中程度、収量性はやや多収、玄米千粒重はやや重く、見かけの玄米品質は良い。

耐冷性が極強で、いもち病の圃場抵抗性は、葉いもち、穂いもち共に中で、穂発芽性は難。県中、北部の早植地帯に適する。

ウ とちぎ酒14

平成16年10月に品種登録出願した多収性酒造好適米品種。品種登録番号第15391号。主な特性は、若水と比べて、出穂期は8日、成熟期は10日遅い晩生、耐倒伏性はやや弱、収量は2割程度多収、玄米千粒重は同程度。心拍は小さく、大きさは小中。

いもち病圃場抵抗性は、葉いもち、穂いもち共にやや強で若水よりも強い。

エ とちぎの星

平成23年6月に品種登録出願した良食味多収粳品種。品種登録番号第25981号。主な特性は、あさひの夢より出穂期で4日、施熟期で6日早い中性、玄米千粒重はやや重く、収量性はやや多収。

いもち病圃場抵抗性は、葉いもちで強、穂いもちはやや強。県中南部の早植栽培および普通植栽培地帯に適する。

(2) 大麦類

ア タカホゴールドデン

平成6年10月に品種登録出願したビール醸造用二条大麦品種。品種登録番号第5547号、二条大麦農林番号第16号。主な特性は、早生、稈中、短穂で多収。縞萎縮病抵抗性が強、うどんこ病耐病性が極強。

イ スカイゴールドデン

平成12年11月に品種登録出願したビール醸造用二条大麦品種。品種登録番号第11466号、二条大麦農林第20号。

主な特性は、早生、中稈、短穂で多収。縞萎縮病抵抗性は極強、うどんこ病抵抗性は強。

ウ サチホゴールドデン

平成17年11月に品種登録出願したビール醸造用二条大麦品種。品種登録番号第17311号、二条大麦農林番号第22号。

主な特性は、早生、短稈、中穂で多収。縞萎縮病抵抗性及びうどんこ病抵抗性は共に極強。

エ とちのいぶき

平成20年10月に品種登録出願した食用二条大麦品種。品種登録番号第21710号。主な特性は、早生、短稈、中穂で多収。縞萎縮病抵抗性は極強、うどんこ病抵抗性はやや弱。ポリフェノール含有量が低く、炊飯後の褐変がほとんどない。

オ アスカゴールドデン

平成23年11月に品種登録出願したビール醸造用二条大麦品種。品種登録番号第22415号。主な特性は、早生、短稈、短穂で多収。縞萎縮病抵抗性及びうどんこ病抵抗性は共に極強。

カ HQ10

平成26年4月に品種登録出願した酵素製造用二条大麦品種。主な特性は、早生、中稈、中穂で収量性はやや少。麦芽のジアスターゼ力はスカイゴールドデンやミカモゴールドデンよりも極めて高く、β-アミラーゼ力もサチホゴールドデンよりも高く共に極高。

キ ニューサチホゴールドデン

平成26年に品種登録出願したビール醸造用二条大麦品種。主な特性は、サチホゴールドデンと同。原麦リポキシゲナーゼ活性は無。

(3) いちご属

ア とちおとめ

平成6年6月に品種登録出願した促成栽培用品種。品種登録番号第5248号。主な特性は、休眠は女峰よりほぼ同程度かやや浅く、果実は女峰よりも大きく、果色は鮮赤色で光沢がある。糖度はとよのか並みに高く、硬度は女峰より果皮果肉共に硬く、日持ちが良い。

イ とちひめ

平成10年7月に品種登録出願した促成栽培用品種。品種登録番号第9512号。主な特性は、休眠は女峰よりやや深く、果実はとちおとめより大きく、果色は濃赤色で光沢がある。糖度は女峰並みで糖酸度が高く、硬度は果皮果肉共に女峰と同程度かやや柔らかい。食味は良く、いちご狩りや直接販売等、観光用栽培に適応性が高い。

ウ とちひとみ

平成16年7月に品種登録出願した夏秋どり栽培品種。品種登録番号第15007号。主な特性は、四季成り性が強く、果実はセリーヌ・ペチカよりやや大きく、鮮赤色の円錐形で、光沢は中程度である。糖度は、セリーヌ・ペチカよりもやや高く、硬度は極めて高く、日持ち、輸送性とも優れ、食味を良い。準高冷地から高冷地までの栽培が可能である。

エ なつおとめ

平成21年12月に品種登録出願した夏秋どり栽培品種。品種登録番号第20766号。主な特性は、四季成り性はとちひとみに比べ弱く、果実は鮮赤色の円錐形で、光沢も良い。収量性は、とちひとみ、ペチカよりも優れ、食味はとちひとみと同等である。準高冷地から高冷地までの栽培が可能である。

オ 栃木 i27 号

平成23年11月品種登録出願した促成栽培用品種。主な特性は、果実は濃橙赤の円錐形で、光沢は良い。糖度、酸度はやや低く、食味はとちおとめと同等によい。硬度はとちおとめよりやや高い。収量性はとちおとめよりも高い。

(4) うど種

ア 栃木芳香1号

平成23年3月に品種登録出願した軟化・緑化栽培用品種。品種登録番号第21788号。主な特性は、萌芽の早晩性は、紫と同様に中生で休眠性は中程度である。軟化茎の伸長性は、紫より小さく中程度で、食味は紫と同程度である。

イ 栃木芳香2号

平成23年3月に品種登録出願した緑化栽培用品種。品種登録番号第21789号。主な特性は、法がの早晩性は、紫より早く早生で休眠性は深い。軟化茎の伸長性は、紫より小さく中程度である。食味は、香りおよびあくの程度が紫に比べてやや弱い。

(5) かぼちゃ属

ア ニューなかやま

平成13年3月に品種登録出願したトンネルおよび露地普通栽培用品種。品種登録番号第12198号。主な特性は、雌花開花開始期は、在来系統（中山かぼちゃ）に比べトンネル栽培で6日、露地栽培で6日早い。果実は、在来系統の特性と同じである。収量は在来系統の約2倍で、食感に優れている。

(6) にら種

ア なかみどり

ネギにニラの花粉を交配し胚珠培養によって作出した種間雑种植物を平成5年10月に品種登録出願した。品種登録番号第5073号。主な特性は、休眠はスーパーグリーンベルトよりやや深く、分けつきぬみどりの半分程度である。稔性がなく、株分けなどの栄養繁殖を行う。葉長はきぬみどりと同程度、葉幅は狭く、収量はやや少ない。ねぎやにらに比べ、カロチン、鉄、繊維、リン、糖質が多く含まれ、香りはねぎとにらの両方の成分を含み、にんにく臭が強い。

イ ゆめみどり

平成26年7月に品種登録出願した多収性品種。主な特性は、休眠性はスーパーグリーンベルトよりやや浅く、茎数はやや少。草姿は立性で、葉鞘長が長い。周年生産が可能で、慣行作型や年1作連続収穫栽培用品種。

(7) 日本なし

ア につこり

平成6年3月に品種登録出願した晩生の赤なし品種。品種

登録番号第 5138 号。主な特性は、果実は大きく、玉揃いは良い。果肉はやや雪白、硬度は豊水と同程度で、糖度は高く甘い、酸味は弱い。貯蔵性は愛宕や親雪より短く常温で 75 日程度。

イ きらり

平成 17 年1 月に品種登録出願した晩生の赤なし品種。品種登録番号第 14786 号。主な特性は、収穫期は豊水とにっこりの間、新高とほぼ同時期。果実の大きさは新高よりやや大、果肉は黄白色で軟。糖度は高く甘い、酸味は弱い。貯蔵性はあきづきと同程度で新高より短く常温で 10 日程度。

ウ おりひめ

平成 25 年 2 月に品種登録出願した早生の青なし品種。主な特性は、収穫期は八里やなつしずくより早く、果実は早生の中では大果で果皮は黄色。糖度は高く、酸味は弱く、なつしずくより食味はよい。

(8) 花き

ア デルヒニウム属

優良系統の塊茎腋芽から組織培養によって、クローン品種を作出した。花色は、淡い青色でスプレー状に咲く系統をスプレーアロー①、淡い黄色系で穂状に咲く系統をイエローアロー、鮮明な青色系で穂状に咲く系統をブルーアローとして平成 4 年 12 月に品種登録出願した。品種登録番号①第 5379 号、②第 5380 号、③第 5381 号。

イ オンシジューム類

オンシジュームとイオノプシスを属間交配し作出した。花色は、未展開の花弁は淡黄色だが、完全に展開するまでに淡紫ピンク色に変化するポコアポコピンク①、未展開の花弁は浅黄色だが、完全に展開するまでに淡茶橙色に変化するポコアポコオレンジ②、未展開の花弁は明緑黄色だが、完全に展開するまでに白色に変化するポコアポコホワイト③、花色は浅黄色で、オンシジュームより柔らかい黄色であるポコアポコイエロー④として平成 6 年 3 月に品種登録出願した。品種登録番号は、①第 5597 号、②第 5599 号、③第 5600 号、④第 5598 号。

ウ カーネーション種

場内育成系統どうしを交配し作出した。花色は淡桃色の単色、開花期はライトピンクバーバラより早く、早生品種であるスマイリーファボーレ①、花色は桃白色の単色で、開花期はライ

トピンクバーバラより早く、早生品種であるラブソディーファボーレ②、花色は淡桃色の単色で、開花期はライトピンクバーバラとほぼ同程で、早生品種であるミスティーファボーレ③として平成 6 年 3 月に品種登録出願した。品種登録番号は、①第 5988 号、②第 5989 号、③第 5990 号。また、花色は桃白色の単色で、開花習性は四季咲き、茎は太く折れ難く、分枝数が多く、花型は盛咲きであるシルキーファボーレ④、花色は鮮桃色の単色で開花習性は四季咲きで開花は早く、花型は盛咲きであるプリティーファボーレ⑤として平成 7 年 3 月に品種登録出願した。登録品種番号は、④第 6955 号、⑤第 6956 号。

エ あじさい属

平成 22 年 10 月に品種登録出願した鉢物栽培用品種。花序は平型のガクアジサイ型で直径は城ヶ崎より大。装飾花は八重咲きの覆輪タイプで複数色。主色は赤味紫で、覆輪の外側は白く、がく片の縁に深い切り込みが入る。平成 23 年 1 月にきら星として出願公表。

2 特許

農業試験場で勤務発明によって出願した特許は、次のとおりである。

- | | | |
|-----|------|--------------------------------------------------|
| (1) | 発明者 | 石川成寿、山崎周一郎、伊豆進 |
| | 出願月日 | 平成9年2月21日 |
| | 発明名称 | 炭そ病防除効果を示す新規微生物 |
| | 出願方法 | 国内出願（出光興産株式会社と共同出願） |
| | 内容 | イチゴ炭そ病菌に対して拮抗作用を有し、その拮抗作用を持続性をもって発揮することが可能な新規微生物 |
| (2) | 発明者 | 大村裕顕、宮崎成生、岩崎慎也、阿部喜夫、阿部保雄、稲垣作樹、高山茂男、高橋睦 |
| | 出願月日 | 平成9年9月17日 |
| | 発明名称 | 造粒装置 |
| | 出願方法 | 国内出願（株式会社トキメックと共同出願） |
| | 内容 | 脱水ケーキ化された汚泥状物質等を混練、造粒、整粒化する装置 |
| (3) | 発明者 | 大村裕顕、宮崎成生、岩崎慎也、高山茂男、阿部喜夫、阿部保雄、高橋睦 |
| | 出願月日 | 平成9年9月17日 |
| | 発明名称 | 造粒装置 |
| | 出願方法 | 国内出願（株式会社トキメックと共同出願） |
| | 内容 | 汚泥状物質や粉体状物質を混練、造粒、整粒化するための装置 |
| (4) | 発明者 | 大村裕顕、宮崎成生、岩崎慎也、阿部保雄、阿部喜夫、高山茂男、稲垣作樹、高橋睦 |
| | 出願月日 | 平成9年9月17日 |
| | 発明名称 | 造粒方法およびその装置 |
| | 出願方法 | 国内出願（株式会社トキメックと共同出願） |
| | 内容 | 混練、造粒、整粒を行うための装置 |
| (5) | 発明者 | 大村裕顕、宮崎成生、岩崎慎也、阿部保雄、高山茂男、高橋睦、稲垣作樹、山代篤志、倉知孝雄 |
| | 出願月日 | 平成9年12月12日 |
| | 発明名称 | 肥料作成システム |
| | 出願方法 | 国内出願（株式会社トキメックと共同出願） |
| | 内容 | 汚泥状物質を脱水処理し、粒状の肥料にする装置 |
| (6) | 発明者 | 大村裕顕、宮崎成生、岩崎慎也、安中敏男、高橋睦、阿部保雄、高山茂男 |
| | 出願月日 | 平成9年12月12日 |
| | 発明名称 | 脱臭装置 |
| | 出願方法 | 国内出願（株式会社トキメックと共同出願） |
| | 内容 | 石灰処理肥料を作成する際に発生する悪臭気体及び悪臭成分を薬品と反応させ脱臭する装置 |
| (7) | 発明者 | 大村裕顕、宮崎成生、岩崎慎也、安中敏男、高橋睦、阿部保雄、高山茂男 |
| | 出願月日 | 平成9年12月12日 |

第3章 第6節 登録品種及び特許等

- | | |
|---------|---------------------------------------------------------------------------|
| 発 明 名 称 | 脱臭装置 |
| 出 願 方 法 | 国内出願（株式会社トキメックと共同出願） |
| 内 容 | 石灰処理肥料を作成する際に発生する粉塵、水蒸気等を含有する悪臭気体及び悪臭成分を薬品と反応させ脱臭と水蒸気を冷却し発生した水滴を外部に排出する装置 |
- (8) 発 明 者 大村裕顕、宮崎成生、岩崎慎也、安中敏男、高橋睦、阿部保雄、高山茂男
- | | |
|---------|-------------------------|
| 出 願 月 日 | 平成9年12月12日 |
| 発 明 名 称 | 脱臭システム |
| 出 願 方 法 | 国内出願（株式会社トキメックと共同出願） |
| 内 容 | 石灰処理肥料作成装置全体に対する脱臭を行う装置 |
- (9) 発 明 者 植木正明、高際英明、栃木博美、稲葉幸雄、大橋幸雄、石原良行、畠山昭嗣
- | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 出 願 月 日 | 平成10年3月30日 |
| 発 明 名 称 | いちご栽培装置 |
| 出 願 方 法 | 国内出願 |
| 内 容 | 余剰液排出による環境汚染を防ぐため、培地ベット下に貯留した培養液を再び培地に滴下させると共に吸収布による毛管現象を利用し、培地に吸収させ拡散させる装置 |
- (10) 発 明 者 植木正明、高際英明、栃木博美、稲葉幸雄、大橋幸雄、石原良行、畠山昭嗣
- | | |
|---------|------------------------------------------------------|
| 出 願 月 日 | 平成10年3月30日 |
| 発 明 名 称 | いちご栽培装置 |
| 出 願 方 法 | 国内出願 |
| 内 容 | 余剰液排出による環境汚染を防ぐため、培地ベット下に貯留した培養液を再び培地に滴下させ吸収、拡散させる装置 |
- (11) 発 明 者 石原良行、木村栄
- | | |
|---------|----------------|
| 出 願 月 日 | 平成11年12月20日 |
| 発 明 名 称 | 余剰液を出さない養液栽培装置 |
| 出 願 方 法 | 国内出願 |
| 内 容 | 余剰液を出さない養液栽培装置 |
- (12) 発 明 者 石原良行、大島一則、人見秀康、加納賢三、野村保明
- | | |
|---------|--------------------------------------------------------------|
| 出 願 月 日 | 平成15年3月3日 |
| 発 明 名 称 | 流量制御機構および該機構を備えた植物栽培装置 |
| 出 願 方 法 | 国内出願（株式会社誠和と共同出願） |
| 内 容 | 流体漏れおよびチューブのはずれという弊害のない、流体の制御能に優れた流量制御機構および該流量制御機構を備えた植物栽培装置 |
- (13) 発 明 者 戸谷良二、山城都、井澤倫久、植竹大輔
- | | |
|---------|----------------------------|
| 出 願 月 日 | 平成16年3月31日（優先日：平成15年9月24日） |
| 発 明 名 称 | 家蚕緑色繭を利用した紫外線遮蔽剤および蛍光発色剤 |
| 出 願 方 法 | 国内出願、優先権主張 |

第3章 第6節 登録品種及び特許等

- | | |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 内 容 | 家蚕のうち緑色繭を生産する蚕品種の繭からフィブロインを取り除くことで紫外線UV-Aを遮蔽かつ、紫外線を有用な蛍光色に変換させる成分を得る方法 |
| (14) 発 明 者 | 那須野泰弘、石原良行、羽石重忠、野尻重利 |
| 出 願 月 日 | 平成15年11月4日 |
| 発 明 名 称 | 誘引紐用結束具 |
| 出 願 方 法 | 国内出願（ナスニック株式会社、株式会社JA 栃木グリーンと共同出願） |
| 内 容 | 架線にワンタッチで簡単に装着でき、ずり下げ誘引に必要な長さの誘引紐の付けた機具の開発 |
| (15) 発 明 者 | 金原啓一、岸祐子、鷺尾一広、小島耕一 |
| 出 願 月 日 | 平成16年12月27日（優先日：平成15年12月26日） |
| 発 明 名 称 | 果樹類の盛土式根圏制御栽培方法 |
| 出 願 方 法 | 国内出願、優先権主張 |
| 内 容 | 防水シート上に盛土を形成し果樹類を植え、樹の成長状態に合わせて要求される水を給水できるように自動灌水装置を付けて栽培する方法 |
| (16) 発 明 者 | 那須野泰弘、石原良行、羽石重忠、高浪弘好、野尻重利 |
| 出 願 月 日 | 平成17年6月22日 |
| 発 明 名 称 | トマトやキュウリの栽培具 |
| 出 願 方 法 | 国内出願（ナスニック株式会社、株式会社JAグリーンとちぎと共同出願） |
| 内 容 | トマトやキュウリの茎を所定の高さに張られた架線につり下げるための機具の開発 |
| (17) 発 明 者 | 天谷正行、田崎公久 |
| 出 願 月 日 | 平成17年3月15日 |
| 発 明 名 称 | いちご品種識別用プライマーセット及びこれを用いたいちご品種識別方法 |
| 出 願 方 法 | 国内出願 |
| 内 容 | 識別マーカを用いたいちご品種識別方法 |
| (18) 発 明 者 | 天谷正行、田崎公久、柏谷祐樹 |
| 出 願 月 日 | 平成18年3月24日 |
| 発 明 名 称 | いちご品種のDNA配列差異を利用したマルチプレックス法に基づく識別方法 |
| 出 願 方 法 | 国内出願 |
| 内 容 | マルチプレックスPCR法を用いてイチゴ由来のゲノムDNAを核酸増幅し、イチゴ品種を識別する方法 |
| (19) 発 明 者 | 千田茂樹、石川成寿、森下康行 |
| 出 願 月 日 | 平成20年3月14日 |
| 発 明 名 称 | 農園芸植物の病虫害防除剤 |
| 出 願 方 法 | 国内出願（出光興産株式会社と共同出願） |
| 内 容 | タラロマイセスフラバス Yuri-01 株、ペニシリウムヴァーミキュラタム Yuri-12 株およびこれらの菌株の変異株等で病虫害防除能を有する菌株を利用した農園芸植物防除剤の開発 |

第3章 第6節 登録品種及び特許等

- (20) 発明者 田中敦、高橋建夫、須藤貴子
出願月日 平成20年3月19日（優先日：平成19年3月30日）
発明名称 巨峰系ブドウの鮮度保持用包装袋及び巨峰系ブドウの保存方法
出願方法 国内出願（住友ベークライト株式会社と共同出願）、優先権主張
内 容 巨峰系ブドウの鮮度保持用高分子フィルム包装資材および保存方法
- (21) 発明者 根岸直希、藤井裕二、望月勇志、河岡明義、大谷義夫
出願月日 平成24年1月24日
発明名称 果樹の栽培方法
出願方法 国内出願（日本製紙株式会社と共同出願）
内 容 果樹の自根苗を根圏制御及びフルメット処理を行って栽培する果樹栽培方法
- (22) 発明者 上田（大関）美香、関和孝博、五月女敏範、岡田正通、片瀬徹
出願月日 平成26年8月
発明名称 酵素の製造方法
出願方法 国内出願（株式会社天野エンザイムと共同出願）
内 容 植物種子に含まれる酵素を高生産・高収量に回収することが出来る酵素の製造方法

3 商標登録

- (1) 作物名 いちご
出願月日 平成24年3月4日
商標名 スカイベリー
登録番号 第5519463号（第31類）
第5519465号（第29類、第30類、第32類、第33類）
第5686275号（第29類、第30類、第32類、第33類）
- (2) 作物名 りんどう
出願月日 平成23年3月4日
商標名 るりおとめ
登録番号 第5436866号（第31類）

